

港南区笹下町三丁目埋蔵文化財発掘調査成果報告会

株式会社四門 高橋直崇

歴史的環境と調査に至る経緯

横浜市立磯子工業高校の敷地内から縄文土器・弥生土器が出土。

- この土器を根拠に、港南区笹下から磯子区森の範囲を、縄文時代中期と弥生時代の遺跡として、名称「港南区 No.66 遺跡」、「蜂ヶ台貝塚」として登録されていた。

調査の成果

古墳時代末～奈良時代の竪穴建物跡 2 棟を確認した。

縄文時代早期・前期を中心とし、中期・後期を含む縄文土器片と、多量の被熱礫が出土。

- 想定とは異なった時代、様相の遺跡であることが明らかになった。
- 遺跡名称を「笹下町山戸ヶ谷遺跡」とした。

日下小学校所蔵土器

縄文土器は小ぶりの深鉢で、縄文時代中期後半の加曾利 E 式土器と考えられる。

弥生土器は壺で、外面は全体に赤彩され、底部は平底で焼成後穿孔。

- 祭祀に使用したものか。

古墳時代末～奈良時代の集落遺跡

同一台地上や西側隣接台地上での当該期の集落は初の調査事例である。

1 号竪穴建物跡は奈良時代初頭、2 号竪穴建物跡は平安時代初頭の特徴を有する土器が混在していることから、1 号竪穴建物跡の方が古いと推測される。

表採資料の須恵器は、胎土の特徴から、南比企窯跡群産と考えられる。

縄文時代の土器と遺物

遺物包含層から縄文時代早期～前期の縄文土器と被熱した礫が多く出土した。

表土などから、縄文時代中期・後期の土器片も出土している。

被熱礫は調理の道具と考えられ、調理の場である集石が 2 箇所認められた。

炭化物や焼土が確認されておらず、調理後、使用済で破砕した礫を集めた場所とみられる。

石による調理は、土器による調理以上の「容量変動性」を特徴としている。

人類社会の中で、複数の家族が集合するような状況の出現 → 緊張関係の解消、社会関係の円滑にする手段としての「共食」の道具として採用された調理法ではないか。(保坂康夫 2012『日本旧石器時代の礫群をめぐる総合的研究』礫群研究出版会)